

万里集九の像

下呂の温泉地としての最古の記録は、歌人で禅僧の万里集九（1428 年生）のものとされています。万里は紀行文『梅花無尽蔵』の中で、日本の最たる温泉として下呂（岐阜県）、有馬（兵庫県）、草津（群馬県）を挙げています。この作品によりこれらの町の評判は確固たるものとなり、後世まで人気の観光地になりました。

万里は近江国、現在の京都の隣の滋賀県に生まれました。彼は人生の多くの時間を当時の日本の政治と文化の中心地であり、また、彼の時代には偉大な文学の主題であった京都のさまざまな寺院で修行して過ごしました。万里はその後美濃国、現在の岐阜県南部に住んでいました。この時期に下呂を訪れ湯の治癒効果を直接体験したと考えられています。

2015 年 8 月 3 日の下呂温泉感謝祭に際し、万里集九の銅像が除幕されました。銅像は下呂観光交流センターに面しており、ここで訪問客は観光情報の入手やレンタサイクルの利用、街歩き中の小休止などを楽しむことができます。万里集九と 17 世紀に活躍した儒学者の林羅山は、どちらも下呂温泉の歴史的恩人と考えられており、毎年恒例の温泉感謝祭でその栄誉が讃えられます。